
令和7年度
農作業安全に関する指導者育成研修
解 説 資 料

1 農作業事故が引き起こすもの

テキストページ

P.2~P.10

事故データ等の内容はリニューアルされています

1 農作業事故が引き起こすもの

皆さんが日頃、農業者と関わる際に、こう感じたことはありませんか？

- 「安全」にはまったく関心を持ってもらえない
- 農作業事故の話をして、どこか他人事
- 「安全は大事」と言ってくれた人でも、行動は何も変わらない

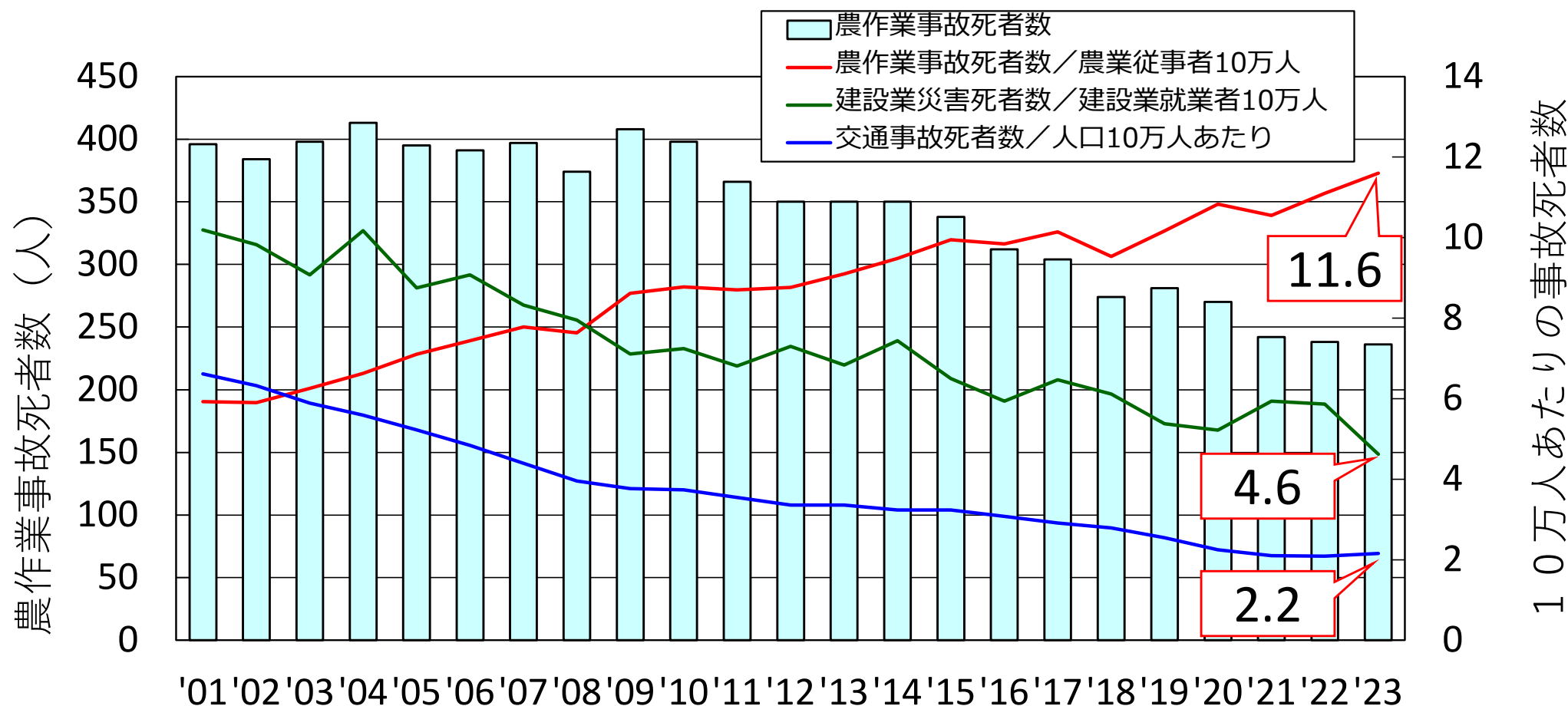
「農作業事故はめったに起こらないもの」と思われているようですが、実際問題、農作業事故はどのくらい起こっているのでしょうか？



2 農作業事故の現状と課題

農作業死亡事故の統計（2025）

- 10万人あたり死亡事故件数、建設業の2.5倍、交通死亡事故の5.3倍
- 後遺障害事故は死亡事故の約2倍、傷害事故は約266倍、農作業事故全体は年間6.4万件と推定（JA共済連）

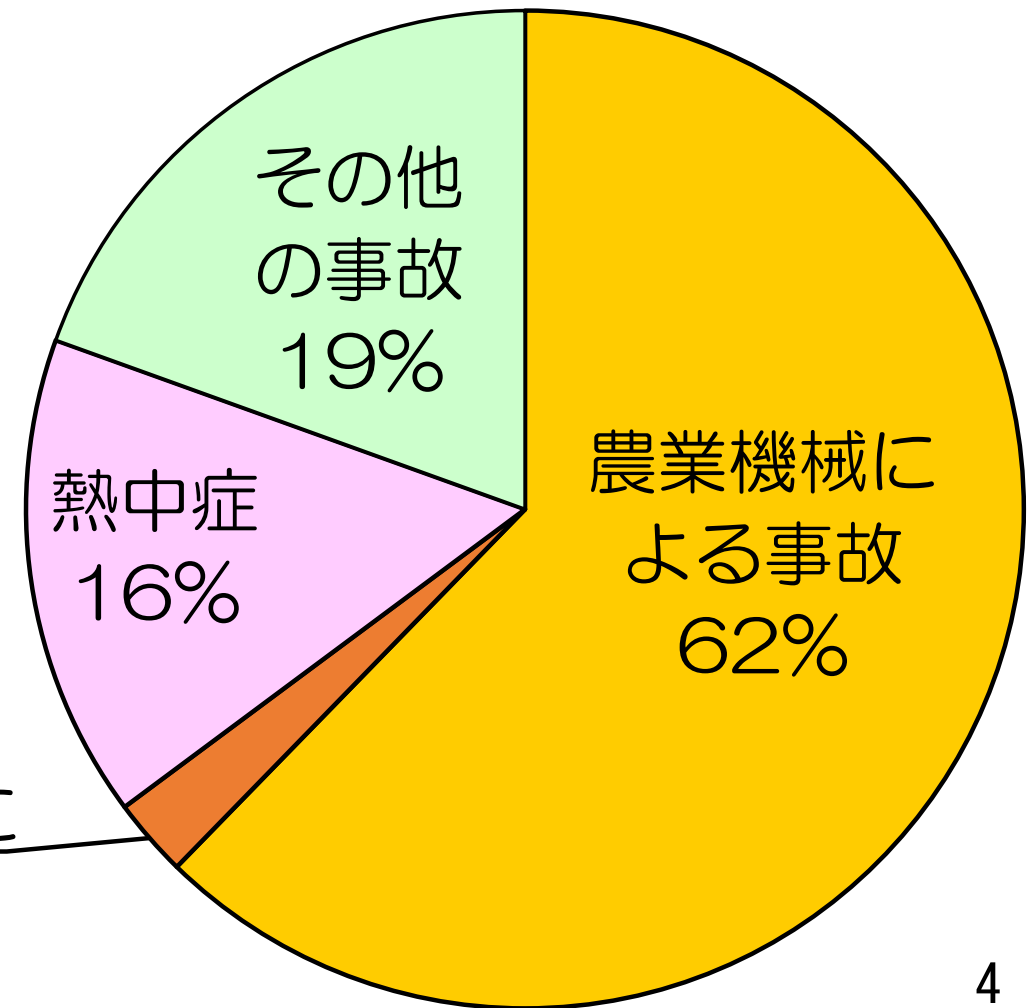


2 農作業事故の現状と課題

農作業死亡事故の統計（2025）

- 農作業死亡事故の内訳
- ・ 農業機械による事故は過去10年以上、60～70%を占める
- ・ 負傷事故の場合、北海道では牛との接触による事故が最多で年間約700件（農業機械による事故件数を上回る）
- ・ 府県でも潜在的に多発している可能性

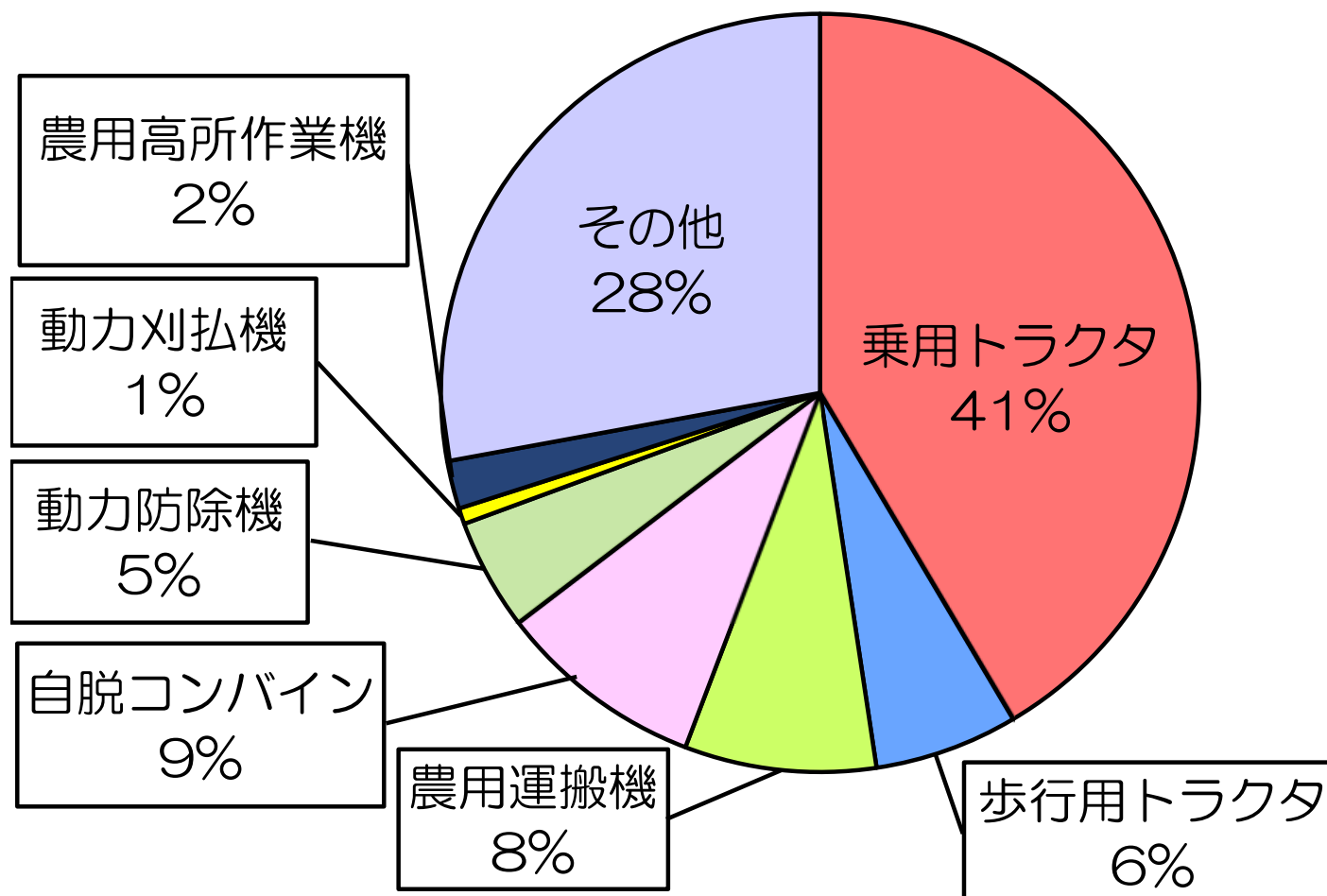
農業施設に
よる事故
3%



2 農作業事故の現状と課題

農作業死亡事故の統計（2025）

- 農業機械による死亡事故の内訳



乗用トラクタ

転落転倒
が最多

1位



自脱コンバイン

転落転倒が
最多

2位←4位



農用運搬機

転落転倒が
最多

3位←3位



歩行用トラクタ

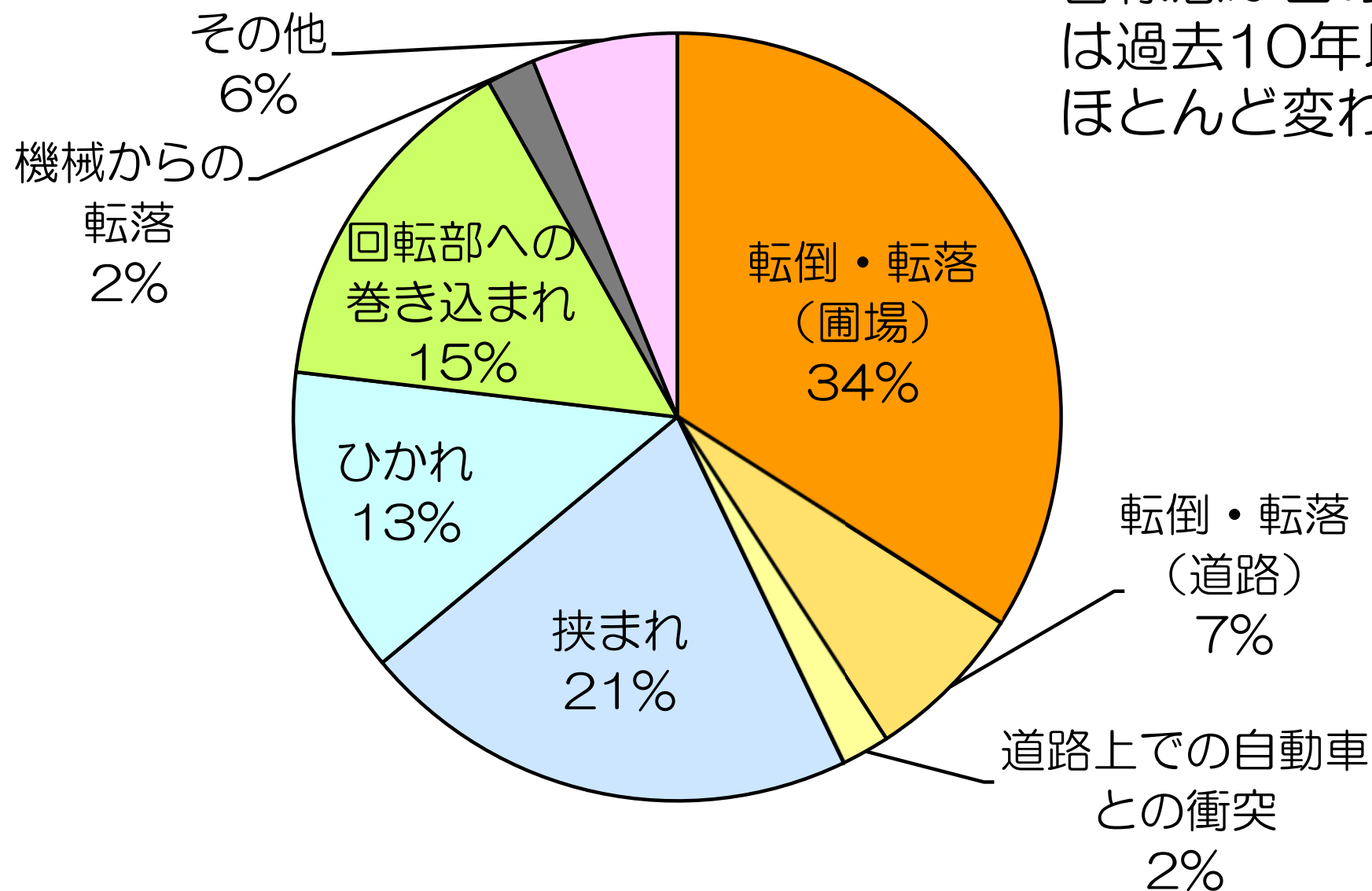
挟まれが最
多

4位←2位

2 農作業事故の現状と課題

農作業死亡事故の統計（2025）

- 農業機械による事故の様態



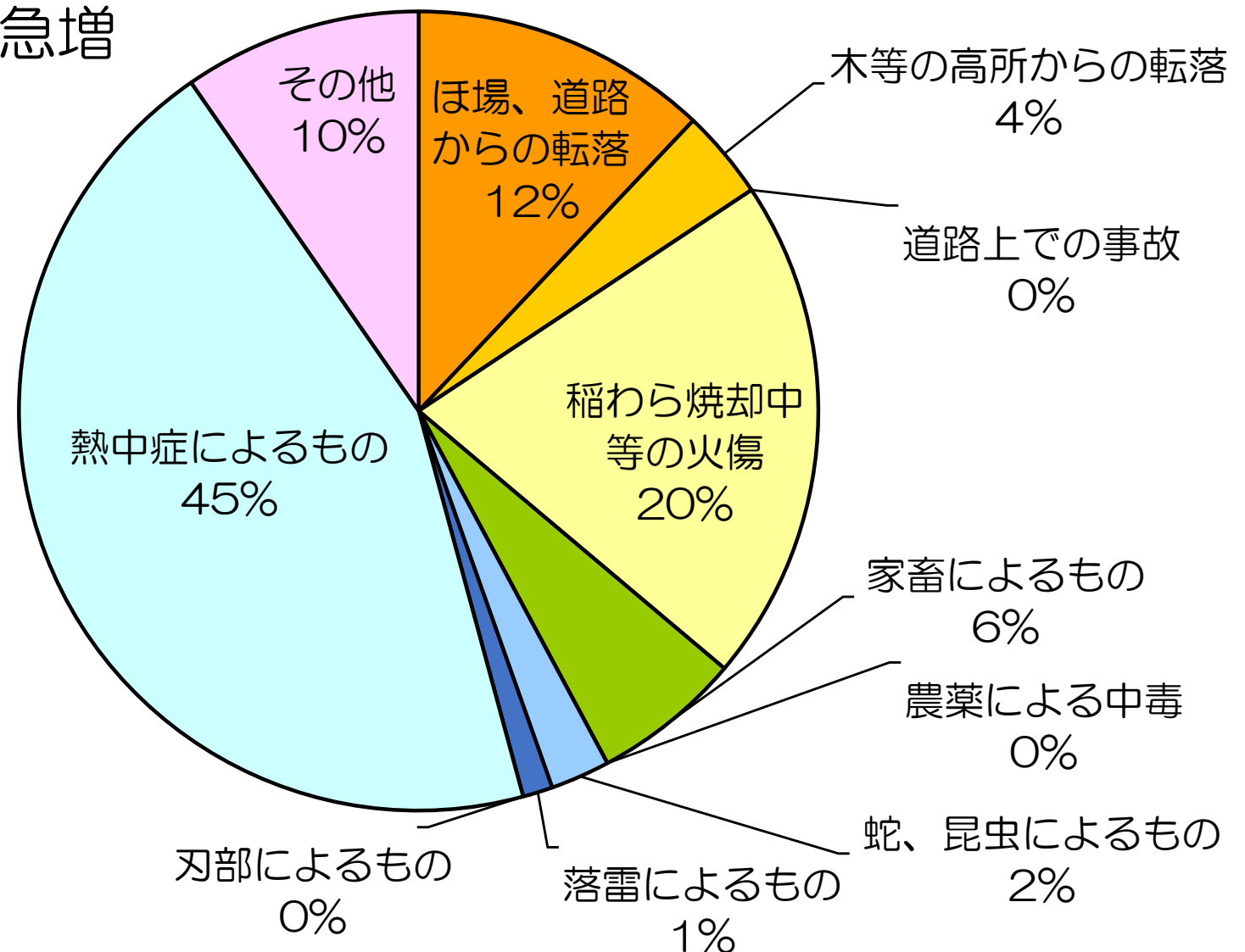
2 農作業事故の現状と課題

農作業死亡事故の統計（2025）

- 農業機械・施設以外による死亡事故の内訳

熱中症が近年、急増
の傾向

2008年の3倍
（件数ベース）

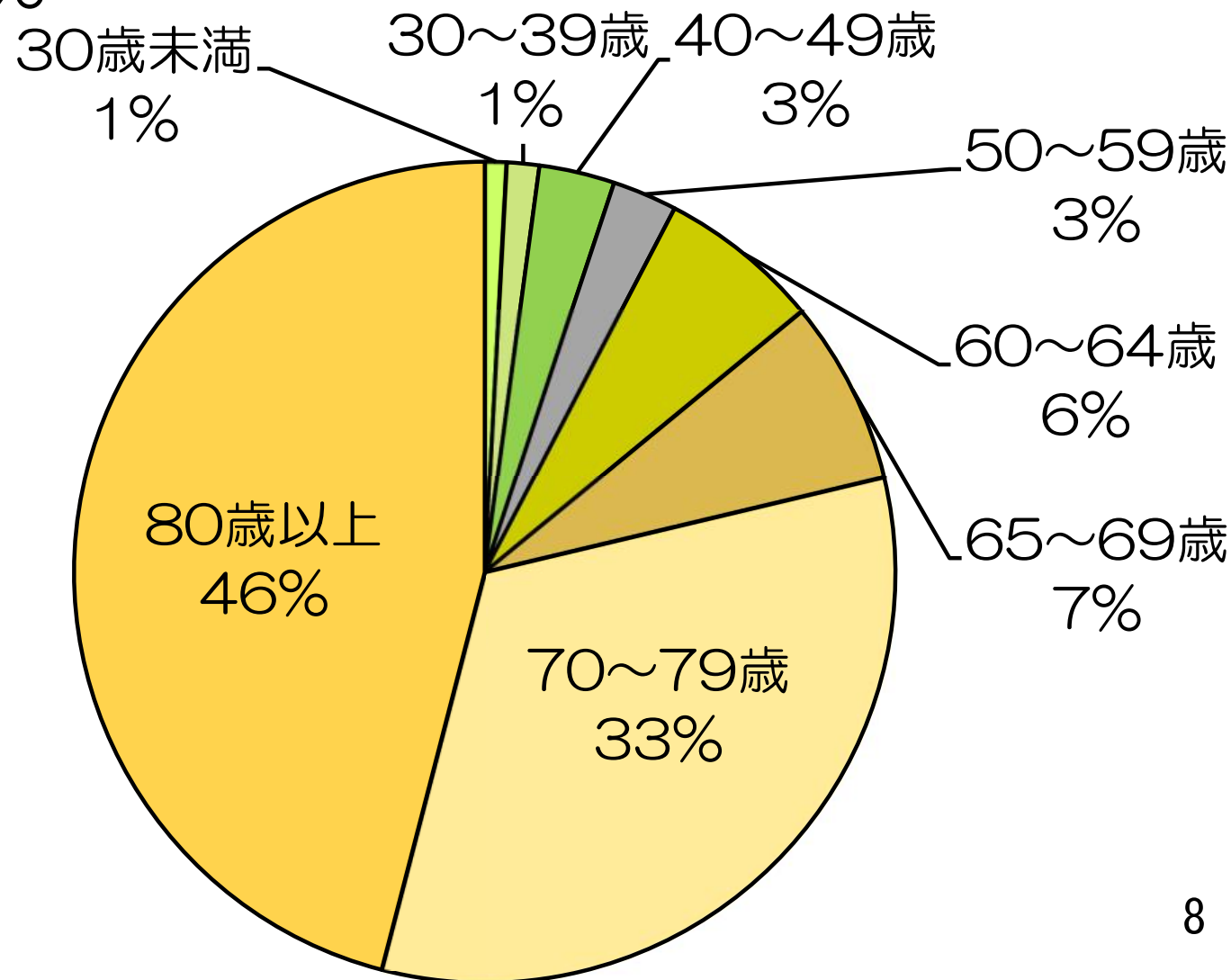


2 農作業事故の現状と課題

農作業死亡事故の統計（2025）

- 年齢層別の推移

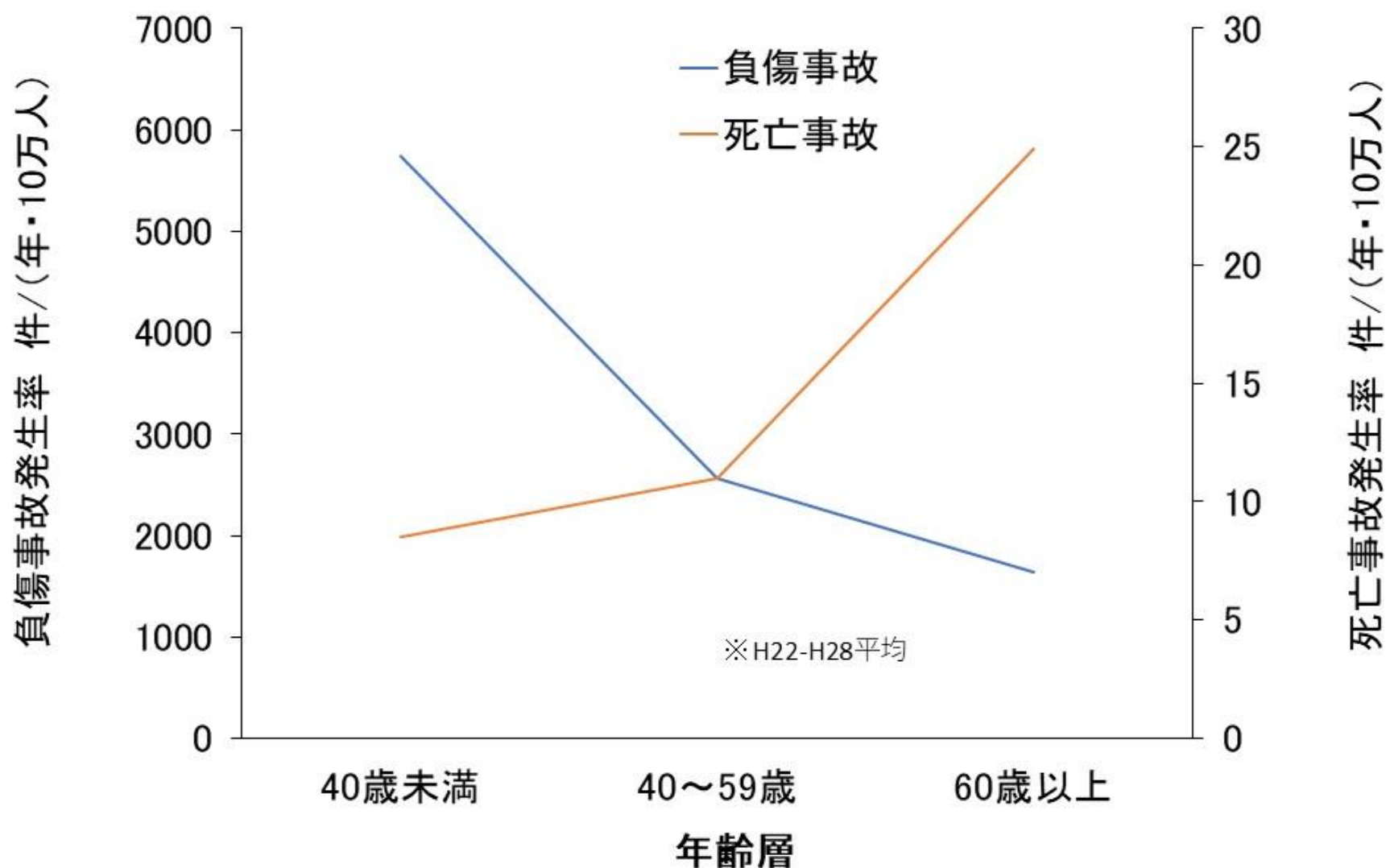
65歳以上層が86%



2 農作業事故の現状と課題

農作業死亡事故の統計（2010～2019）

- 若年層の負傷事故発生率はむしろ高い



2 農作業事故の現状と課題

農作業事故が減らない理由－法律上の問題

農業（家族経営）は労働安全衛生法の適用外となることが多い



- 事故報告義務がなく、**家族経営の事故は労災に含まれない**
農水省の統計は厚労省の人口動態調査の死亡個票から集計しているが、情報量が少なく事故要因の分析が困難
- 事故の実態がわからないので、的を射た対策が困難
- 法令・規則に即した安全指導が得られず、安全意識が高まらない、5SやKYTなど身を守る取組が普及しない

それが危険であること
身を守るために必要なこと
本来のあるべき方法

} 教えてもらえる機会が
ほとんどない

2 農作業事故の現状と課題

農作業事故が減らない理由—多くの農業者に見られる傾向

こんな場面を見聞きしたことはありませんか？

- 機械に乗る時や高所作業時にヘルメットをかぶらない
- 田植機の前部にしがみついて田から出る
- トラクタに小さな子供を乗せて作業する
- ゴーグルをしないで刈払機を使う
- 脚立の天盤に乗って作業する
- ハシゴに登って枝を切る・・・など



「それが危険」と知らされず、常識化・常態化していることが構造的な問題

結果として、農業関係者の安全意識は、全業界で最低レベル 11

1 農作業事故が引き起こすもの

Aさん：ブロードキャスタのアジテータに左足を巻き込まれた



「ケガで済んでよかったと言われるが、想像していた以上に心身がつらい」

Bさん：ロールベアラの駆動チェーンに右手を巻き込まれた



「こういう目に遭うのは、自分が最後であって欲しい」

Cさん：自脱型コンバインの搬送チェーンに左手を巻き込まれた



「事故に遭って初めて、やっておくべきことがたくさんあったことに気づいた。全国の仲間にはこういう目に遭う前に気づいて欲しい」

1 農作業事故が引き起こすもの

農作業事故によるダメージ

身心への影響

- ・ 治療や後遺症による肉体的ダメージ
- ・ 自分の過失に対する心理的ダメージ

他者を傷つけたときのショックはなおさら大きい

- ・ 高校生アルバイトをトラクタでけん引したトレーラに乗せて移動中、高校生が転落して轢かれた事故
- ・ 幼児をトラクタに乗せて耕うん作業中、転落してロータリに巻き込まれた事故

いずれも本当にあった事故です

1 農作業事故が引き起こすもの

農作業事故によるダメージ

Dさん（当時50歳代）

露地野菜中心、作業受託も増え、地域の担い手として嘱望

トラクタのPTOを切らず、駐車ブレーキもかけず、トラクタの後ろで作業していたところ、後退してきたトラクタのロータリに巻き込まれ、右脚を複雑骨折、神経断裂等、車椅子生活に



生命保険しか加入しておらず、
出荷価格の急落とも重なり、
子息の学費捻出にも困窮



離 農
地域の担い手
を喪失

「いつもと変わらない作業だったのに、まさかこんなことになるとは思わなかった」

1 農作業事故が引き起こすもの

被災者に共通した思いは「ミスした自分が悪い」

しかし、被災者のミスだけが悪いのでしょうか？

人はミスをする生き物です

「気をつけよう」と言っても何にどのように気をつける？

「農作業安全なんて、面倒くさい」

「今まで大丈夫だったから、これからだって大丈夫」



いまだに多くの人が農作業事故の怖さを知らないままです

これでは、現状を変えることはできません

「安全」に向き合っていただくには、どうすれば
良いのでしょうか？

1 農作業事故が引き起こすもの

農作業事故による経営や周囲への影響の大きさを訴える

- 自分の代わりとなる労働力の確保
- 休職中の業務の遅滞
- 休職中の家族や仲間等への作業負担増
- 離農による地域の担い手の喪失



農作業事故は、最大の経営リスクのひとつ

経営リスク

- 自然災害
 - 資材費等の高騰
 - 生産物価格の下落、等
- } 防げない
- 農作業事故 → 防げる！

経営の持続性の観点から農作業安全を語ってみては？

2 農作業事故の現状と課題

安全啓発の必要性

農作業安全啓発の目的とは？

「あなたが無事でいて欲しい」という思いを伝えること
身を守るための具体的な方法を考えてもらうこと

➡ そのためには、どうしたらよいか？

- ・ チラシ、ポスター等の配布
とにかく「農作業安全」が目につく頻度を上げるのが大事
ケーブルテレビや地元ラジオでの放送、宣伝カーの利用も一案



効率的だが、それだけでは不足

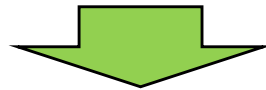
心に深く刺さりにくい

2 農作業事故の現状と課題

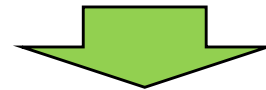
- 研修会や農家回りの際に、ひとこと言い添えてチラシを配布
非効率的だが、相手に直接、気持ちを伝えられる

➡ 自分の心を相手に向ければ、相手の心も動く

農作業安全：法令による強制力が期待できない



農作業安全とは、農業者自身のものであり、
農業者自らが創り出さなければならないもの



しかし、周囲からの働きかけがないと困難です

「どうせ聞いてもらえない」と諦めてしまったら、それで終わり
めげず、しぶとく、根気よく、お節介上等

2 農作業事故の現状と課題

P.9~P.10

- 「農業者を守る法律を作るべき！」という意見があります
もっともですが、法律成立までには長い年月が・・・
その間も被災者は増え続けます



法令問題*の是非はともあれ、事故対策は待ったなし
現実問題として、自主的に取り組まざるを得ない



関係者が連携し、それぞれができること、すべきことを考え、知恵を出し合って地域に根ざした取り組みを展開することが必要

農業者を守る = 経営を守る = 地域を守る

*厚生労働省では、いくつかの農業機械について、構造上の安全要件、定期点検、安全教育等のあり方に関して法令改正に向けた検討中